

弥生ムラ誕生

大開拓時代のひろしま

第22回文化財展

主催／広島市教育委員会
財団法人広島市文化財団



はじめに

今からおよそ2,300年前、大陸からもたらされた米づくりや鉄製品といった新しい技術は人々の生活に大きな変化をもたらしました。米を主食とするこの生活様式は弥生文化と呼ばれ、その後の日本人の生活に大きな影響を与えました。

広島市教育委員会、財団法人広島市文化財団は、これまでに市内の弥生時代の遺跡を30件以上調査してきました。出土した多くの考古資料は、私たちに祖先の暮らしぶり、さらには太古のひろしまを雄弁に物語ってくれます。しかしながら、これら資料や情報は、現地説明会や発掘調査報告書などのほかは、広く市民の方々に知っていただく機会があまりありませんでした。

そこで、これまで広島市内で見つかった弥生時代の遺物を一堂にあつめて展示し、当時の生活の様子を見ていただくこととしました。

この展示会が、郷土広島の歴史・文化を見つめなおし、郷土に対する理解と愛着を深めていただくことに役立てば幸いです。

最後になりましたが、今回の文化財展を開催するにあたり、貴重な資料を出展及びご協力いただきました関係諸機関、関係者の皆様に心からお礼申し上げます。

平成12年1月

広島市教育委員会
財団法人広島市文化財団

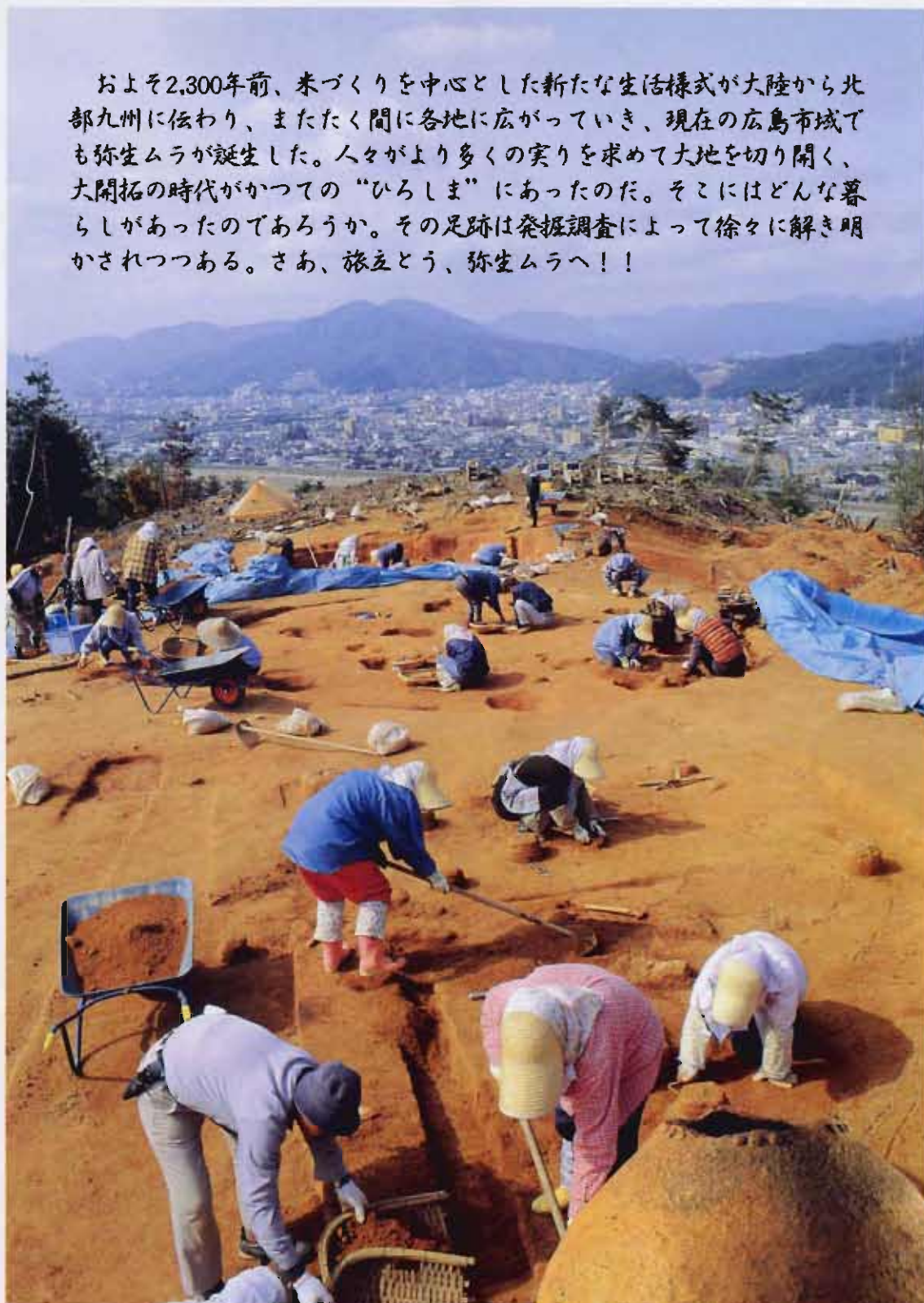
稲刈り作業（財団法人大阪府文化財調査研究センター）

頁	CONTENTS - 目次 -
1	プロローグ 弥生ムラ誕生
3	1. 弥生ムラへようこそ
7	2. 土器の美
10	3. まじないとマツリ
12	4. 葬る
15	エピローグ ムラからクニへ

1. 本書は、平成12年1月22日から1月30日までアステールプラザ市民ギャラリーにおいて開催する第22回文化財展「弥生ムラ誕生～大開拓時代のひろしま」の展示解説資料である。
2. 本書掲載の図版は展示品のすべてではない。
3. 広島市教育委員会所蔵の展示品については、別添リストに掲載している。

プロローグ 弥生ムラ誕生

およそ2,300年前、米づくりを中心とした新たな生活様式が大陸から北部九州に伝わり、またたく間に各地に広がっていき、現在の広島市域でも弥生ムラが誕生した。人々がより多くの実りを求めて大地を切り開く、大開拓の時代がかつての“ひろしま”にあったのだ。そこにはどんな暮らしがあったのであろうか。その足跡は発掘調査によって徐々に解き明かされつつある。さあ、旅立ちよう、弥生ムラへ！！



発掘調査風景（安佐北区梨ヶ谷遺跡）

弥生時代のひろしま

日本の文化史上、縄文時代につづく、現在からおよそ2,300年前から1,700年前までの約600年間を弥生時代と呼び習わしています。

この弥生時代は、中国や朝鮮半島をつうじて、米づくりや青銅器・鉄器といった金属製品が日本へ伝わり、さかんに使用されはじめた時代で、これまでの生活が大きく変革した、いわば現在の生活様式につうずる時代です。

ところで、広島市内では現在までに30件以上の弥生時代の遺跡が調査されています。このなかには集落遺跡や墳墓遺跡があり、この発掘調査で発見された遺構や遺物は、わたくしたちのルーツともいえる弥生人たちのくらしぶりを窺い知ることもできるものです。

とはいえ、その90%以上は後期の遺跡で、前期や中期の遺跡の調査事例がほとんどなく、そのころの状況はよくわかっていないのが実情です。もともと遺跡数が少ないのか、ただ発見されていないだけなのか？ いずれにせよ、数少ない調査事例からみると、中規模河川の河口に広がる沖積低地や河岸段丘上に遺跡がみつかることが多いようです。つまり、このころは生活に必要な水の確保がしやすく、また水田もつくりやすいような場所で生活を営んでいたことが考えられます。

ところが、いまから約2,000年前の中期のおわりごろになると、状況がかわってきます。急速にムラが増加し、小高い丘(比高約30~70m)の上に集落が築かれるようになります。でも、どこの丘の上でも良いというわけではなく、一般的に言えば、当時のムラは、日当たり良好の南向き緩斜面を中心につくられていました。水田は未発見ですが、稲の穂首刈り道具の石庖丁や炭化米などによって水田があったことは確実です。恐らくは水が湧き、日当たりの良い谷間に存在していたと考えられています。

それまで鬱蒼と樹木が生えている山々の地に新たにムラを築くことは、並み大抵のことではなかったことと想像されます。この弥生人たちの大事業をおおいに助けたのが、それまで非常に貴重品であった鉄の道具にほかなりません。このごろになってようやく鉄の道具が普及しはじめるようになったのです。鉄の斧で大木を切り倒し、鉄の刃先をつけた土木工具で堅い大地を切り崩すなど、最新の道具をつかって開発が盛んにおこなわれていきました。現在、わたくしたちの住んでいるすぐそばでは、平地での居住地が手狭になったため、最新の技術を駆使して山々を切り崩して、ニュータウンと呼ばれる新たな居住地が誕生しています。いま各地で繰り広げられている大規模開発も、そのルーツはいまから約2,000年前にあるといえるでしょう。

1. 弥生ムラへようこそ



集落跡（安佐南区大町七九谷B地点遺跡）

谷川を渡り、息の切れそうな坂道を登った小高い丘の上にムラがあった。ムラには数軒の家と米を蓄える倉庫があり、広場では人々が杵と臼で収穫したばかりの稲穂を脱穀していた。待ちこがれた収穫にムラ人たちの歡びもひとしおである。



広島市内から出土した紡錘車



復元機織り（大阪府立弥生文化博物館）

（1）身にまとう

布を使った衣類の源流は、弥生時代にあります。糸を作るには、カラムシに代表される植物と、その繊維を撚って糸にする紡錘車という道具が必要です。植物を水に浸けて皮をはいであら乾燥させた後、紡錘車を使って撚り、糸にします。そして長時間かけて機織りをして、丈夫な布を作っていくのです。当時の中国の歴史書である『魏志倭人伝』には、倭人の男性は横幅衣、女性は貫頭衣を着ていると記載されています。



石庖丁（安佐南区毘沙門台東遺跡）



弥生時代の農具(復元品)（福岡市教育委員会）



銅鐸に描かれた脱穀の様子
（兵庫県桜ヶ丘遺跡 神戸市立博物館）

（2）米をつくる

広島市内では、弥生時代の水田の跡は見つかっていません。しかし、お米や、穂摘みに使っていた石庖丁^{いしほうちよう}などが発見されていることから、米づくりが行なわれていたことは確実です。では、水田はどこにあったのでしょうか。山がちで平野の少ない地形に加え、大型河川が氾濫を繰り返すため、山沿いの谷間に小さな水田をつくり稲を植えていたと考えられています。



水田の跡（岡山県百間川遺跡 岡山県古代吉備文化財センター）



カキ殻（佐伯区小林B地点遺跡）



釣針（安佐南区長う子遺跡）



広島市内から出土した石鏃（石のやじり）

（3）食材をとる

海にも山にも近いここ広島では、魚とりの網のおもりに使われた土錘や石錘、釣針、やじりなどの道具が出土し、弥生人の生活がかいまみられます。

食材としては、アサリやハマグリなどの二枚貝やカキなど、今に通じる広島ブランドの食材も見つかっています。海産物以外には、木の実なども食べていたと考えられ、案外今と比べても遜色のない食材に舌鼓を打っていたのかもしれません。



広島市内から出土した石錘

ひろしまの弥生人の食卓再現

佐伯区城ノ下A地点遺跡では、焼けた家の跡から、恐らく火事で持ち出せなかったと考えられる土器が見つかりました。これらの土器は家族で使っていたもののすべてかどうかわかりませんが、当時の食卓を飾っていたと考えられます。



焼けた家の跡から出土した土器（佐伯区城ノ下A地点遺跡）

コラム

(4) 住居をたてる

弥生時代には、家を作る専門の大工さんはいませんので、ムラ人総出で建てたと考えられます。発掘された柱の穴や焼けた家などを調べると、弥生人が思い描いた住居の設計図や柱や屋根の材質などが分かるのです。



広島市内から出土した石斧



復元住居（安佐北区恵下山遺跡）

(5) 住居の立地

弥生時代のひろしまの住居は、「日当たり良好、風光明媚、生活便利な好立地」に建っており、現在の住宅広告とあまり変わりません。当時の住居は、住宅広告に例えると、「本格木造倭風一戸建て」で、山の尾根を造成して家を立てたため、現在の住宅団地と似ています。今日住宅団地として開発されている造成地が、弥生時代の集落跡だった場所も多いのです。広島市の住宅事情は、今も昔も変わりませんネ。

コラム

戦うムラ 西山遺跡

標高261mの山上に位置する東区戸坂の西山遺跡は、ムラとムラが争い、緊張関係が続いた弥生時代後期に、争乱時の避難場所として利用されたと考えられています。このような遺跡は高地性集落と呼ばれ、瀬戸内海沿岸を中心に分布しています。この西山遺跡からは、集落の跡や食用の貝類など生活の痕跡の他、櫓の飾りと考えられる巴形銅器、銅鏃をはじめとする戦いに関連した遺物が発見されています。



巴形銅器

(東区西山遺跡 広島大学文学部考古学研究室)



鉄器・骨角器（東区西山遺跡 広島大学文学部考古学研究室）

2. 土器の美



土器

(佐伯区城ノ下A地点遺跡)

楽しそうなおしゃべりとともに、細い指が器用に粘土ひもを積み上げている。そのかたわらでは貝殻を使って土器に紋様がつけられている。土器作りは女性たちの仕事だ。彼女たちは先祖代々受けつがれてきた技に新たな感性を加えながら、使い勝手のよい土器を作り上げていった。



(1) 日常の土器

弥生人は米づくりを中心とした生活様式に合わせて、使いやすい土器を作り上げました。彼らは、煮炊き用の甕、貯蔵用の壺、盛りつけ用の高杯・鉢などを組み合わせて生活を営んだと、一般的に考えられています。

甕 (安佐南区長う子遺跡)



壺 (安佐南区毘沙門台東遺跡)



鉢 (安佐南区毘沙門台東遺跡)



高杯 (佐伯区小林B地点遺跡)

(2) マツリの土器

弥生土器は、日常生活のための土器だけでなく、まじないやマツリに使ったと思われるものもみつかっています。これらには特別な形の土器もあれば、日常生活で使うものに手を加えたものもあります。



広島市内から出土したマツリの土器(器台)



北部九州の最初の弥生土器(福岡市埋蔵文化財センター)

(3) 最初の弥生土器 おんががわ 一遠賀川式土器一

弥生土器は、縄文時代以来の土器作りの技術の上に、米づくりとともに朝鮮半島から伝わった土器の影響が加わって生まれた土器です。本格的な農耕を営むようになった人々の手による最初の弥生土器は、北部九州で生まれました。

この土器によく似たものは、本州北端までの各地で見つかっています。これらは、遠賀川式土器と呼ばれ、ここ広島市では東区中山東の中山貝塚、佐伯区利松の和田1号遺跡などで発見されています。各地の遠賀川式土器は、形や紋様に大きな変化が見られないことから、短期間のうちに伝わった弥生文化の指標となっています。



広島市内から出土した遠賀川式土器(壺)
(東区中山貝塚 広島大学文学部考古学研究室)



広島市内から出土した遠賀川式土器(甕)
(東区中山貝塚 広島大学文学部考古学研究室)

(4) 弥生土器の調整・紋様

土器を観察すると、調整と呼ばれる作業の痕跡や紋様を見ることができます。調整とは粘土をうつわの形に作り上げた後に行われる仕上げの工程です。弥生人はこの時、木製や金属製の工具を使用して、粘土を削って薄くしたり、表面をなでたり磨いたりしています。

一方、紋様は、篋、櫛の刃の様な工具、竹の管、貝殻等を用いて施されました。弥生土器の紋様の多くは、すでに縄文土器で使われていたものですが、縄文土器と比較すると非常にすっきりしており、リズムカルに見えます。一般的に弥生時代前期は一本一本線を描く篋描紋が、中期は一度に何本もの線を描く櫛描紋が主流でした。やがて、後期になると紋様が少なくなり、簡素なものへと変化したようです。



木葉紋の土器(東区中山貝塚 広島大学文学部考古学研究室)



波状紋がほどこされた壺（安佐南区恵木遺跡）



はけめの残る壺
（佐伯区小林B地点遺跡）



ひろしまブランドの土器(甕)
（佐伯区城ノ下A地点遺跡）

（5）ひろしまブランドの土器

広島市域で発見された弥生土器の多くは、今からおよそ1,900年から1,700年前の弥生時代後期のものです。この時期は人口が爆発的に増えたと考えられる時期で、土器には地域の特色が現れるようになりました。広島市域で発見された土器は、同じ広島県内でも東部や北部のものと形が異なっています。これらは、ひろしまブランドの土器とも言え、当時の地域性を色濃く反映していると考えられます。



遠くから来た土器

弥生土器は、使っていた人々の住むムラの近くの粘土を使って作られたと考えられますが、形や粘土が異なるなど明らかに他の地域で作られた土器が見つかることがあります。

弥生時代中期では、広島県北東部を中心に出土する塩町式土器が代表例です。また、弥生時代後期では山陰地方の土器がその代表例です。さらに数は少ないものの山口方面、四国地方、近畿地方など、より大きな範囲での交流の跡も見ついています。



山陰系の土器(壺)
（佐伯区串山城遺跡）



近畿系の土器(甕)
（佐伯区平尾遺跡）



塩町式土器(脚付鉢)
（双三郡三和町矢原遺跡
広島県立歴史民俗資料館）

謎の土器

発掘調査では変わった形をした用途不明の土器が見つかることがあります。広島市内の遺跡で時折出土する、メガホンのように筒形で背が高い土器もその一つで、甑形土器と呼ばれています。このような甑形土器は、山陰地方に多く、さらに広島県北部や愛媛県などでも出土しています。

そもそも甑とは米などを蒸すために水をはった甕の上に乗せて使う道具を指していますが、この甑形土器が実際に甑として使われたのかは不明で、他にも諸説あり、いまだに結論は出ていません。いずれにせよ、その多くは住居跡から出土しており、生活に深い関わりがあった土器であることは確かなようです。



広島市内から出土した甑形土器

3. まじないとマツリ



絵画土器（奈良県清水風遺跡 奈良県立橿原考古学研究所）

広場では不思議な格好に身を包んだシャーマンが一心不乱に祈りを捧げている。その前にはあやしい光をはなつ銅鐸がつり下げられている。豊作を祝い、さらなる実りを願う呪文がやんだ。一瞬の静寂の後、聖なる鐘の音が高らかになり響き、ムラ人の歓声がわき上がった。

（1）青銅器のマツリ

弥生時代のマツリには青銅器が重要な役割を担っていました。このうち、武器の形をした銅剣・銅矛・銅戈は北部九州を中心とした地域に、釣り鐘のような形の銅鐸は近畿地方を中心とした地域に多く見つかっています。これらは、ムラから離れた丘の斜面や山かげなど土の中に意図的に埋めた状態でよく発見されています。



銅鐸の出土状況

（島根県加茂岩倉遺跡 島根県教育委員会）



広島市内で見つかった銅鐸、銅剣、銅戈（東区木の宗山遺跡 光町清子氏）



銅鐸（世羅郡世羅西町黒川遺跡
広島県立歴史民俗資料館）



磨製石剣
（安佐南区長う子遺跡）



マツリの風景 (鳥取県福吉角田遺跡 淀江町教育委員会)



土製勾玉 (安佐北区西願寺北遺跡)



ガラス製勾玉 (安佐南区中畦遺跡)



貝製腕輪

(山口県土井ヶ浜遺跡
土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム)

(2) 弥生人のアクセサリー

弥生人にとってアクセサリーは単なるおしゃれのためだけでなく、神社のお守りのように特別な力が得られるという思いから身につけていたと考えられています。安佐北区三入南の丸子山遺跡では、お墓の中から遠い南の海でしかとれない貝で作られた腕輪が女性の人骨とともに発見されています。この人物は労働と縁のない、例えばまじないやマツリなどに大きな関わりを持つ人物であったと考えられます。



木の宗山遺跡の銅鐸はどこで作られたか？



銅鐸の鋳型
(佐賀県安永田遺跡
鳥栖市教育委員会)

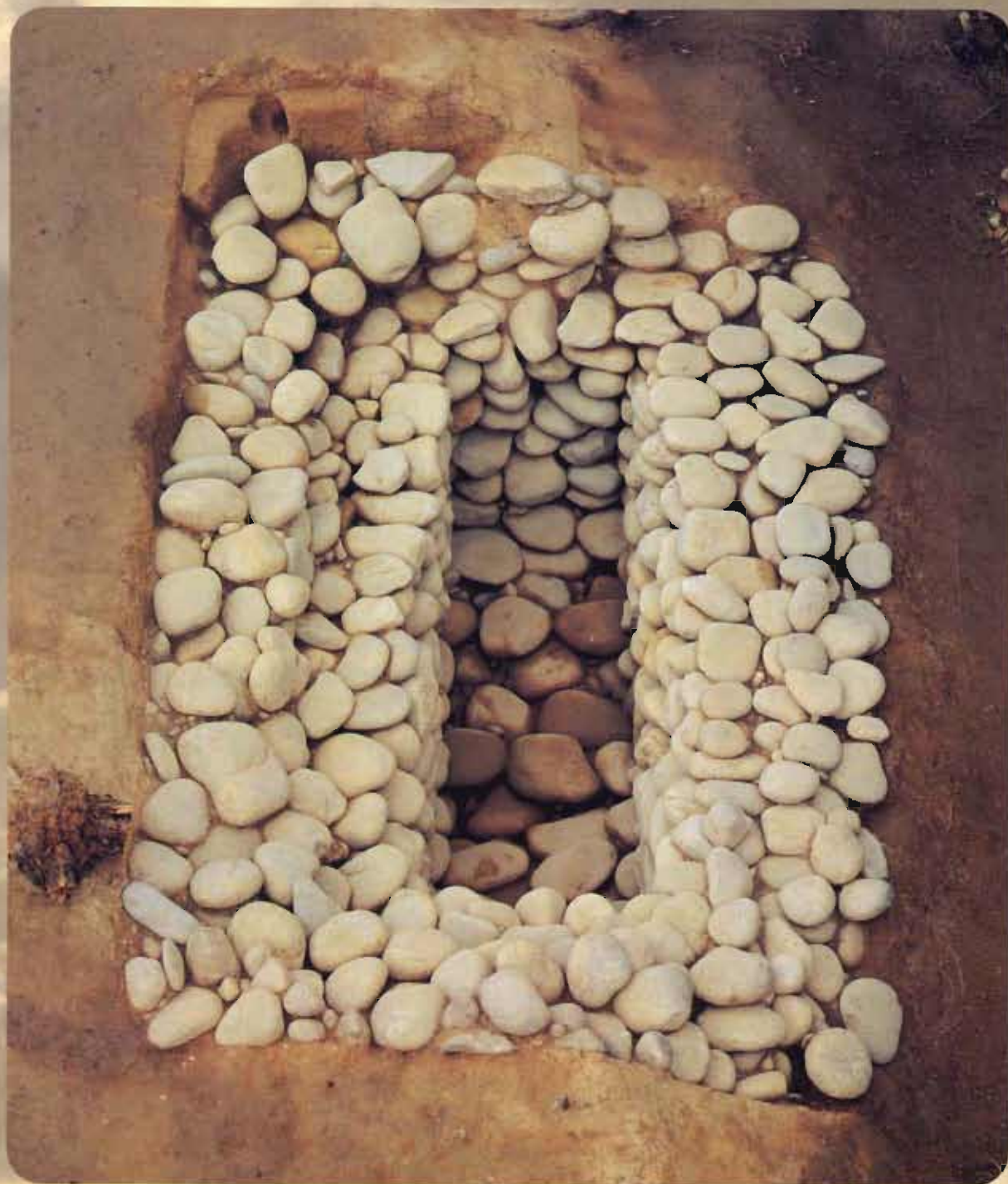
東区福田町の木の宗山遺跡で発見された銅鐸には、奇怪な眼が表現された邪視紋や横帯紋といった紋様が施されています。このうち横帯紋は北部九州と関連があるようです。佐賀県安永田遺跡の鋳型にもこの紋様が見られます。

また、1998年11月には佐賀県吉野ヶ里遺跡で横帯紋を持った銅鐸が見つかりました。これらのことから、木の宗山遺跡の銅鐸は従来、近畿地方からの影響とされていたが、現在では北部九州で生産されたと考えられています。



横帯文銅鐸
(佐賀県吉野ヶ里遺跡
佐賀県教育庁)

4. 葬る ほうむ



河原石でできた石室（安佐北区梨ヶ谷遺跡）

歩き始めたばかりの幼子が亡くなった。かわいそうに、若い両親はないている。やがて棺となる壺が運ばれ、永遠の別れの儀式が始まった。悲しみの中で墓穴に壺が納められると、皆のすすり泣きがこたました。



土壇墓群（佐伯区平尾遺跡）



木棺墓（大阪府雁屋遺跡 四條畷市教育委員会）



土器棺墓
(安佐南区寺山遺跡)



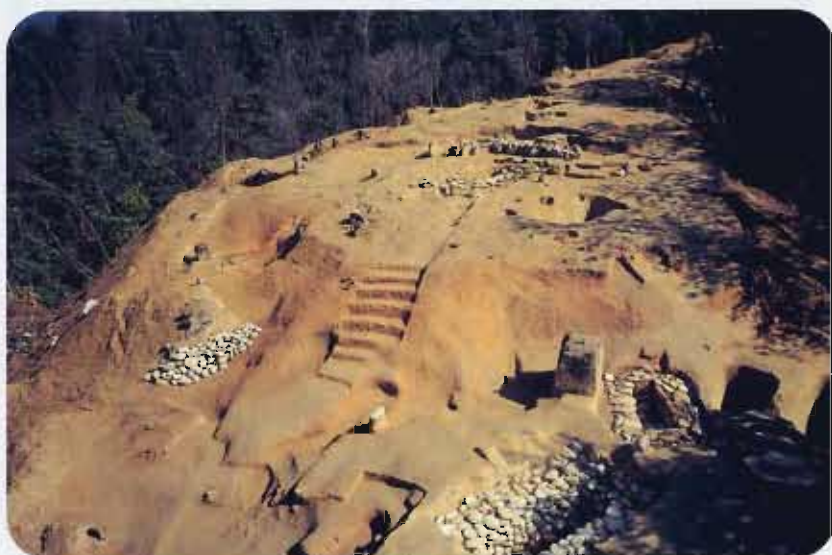
箱式石棺墓
(安佐南区大町七九谷C地点遺跡)

(1) お墓のかたち

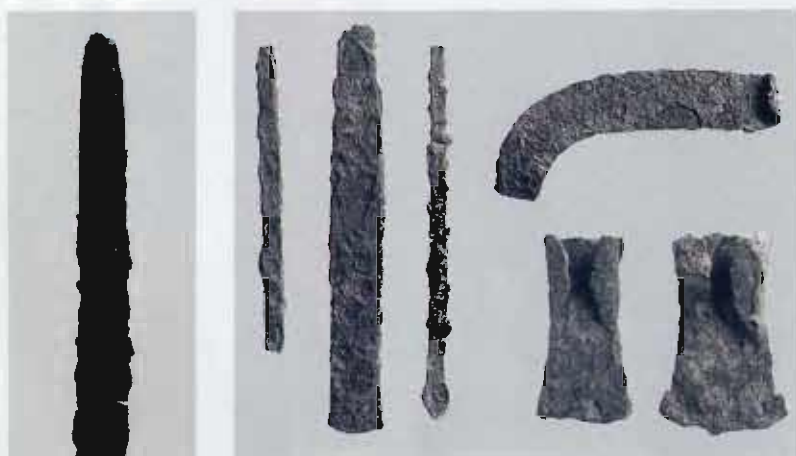
現在のお墓にもいろいろなスタイルがあるように、弥生時代のお墓にも様々なものがあります。石で周囲を覆われた箱式石棺墓や土器の中に遺体を入れた土器棺墓のほか、穴を掘り込んだ土壙墓が見つかります。土壙墓の多くは、木の棺を入れる木棺墓と考えられます。これらのお墓は、ほとんどが住居と離れた特別な場所に集められています。

(2) 有力者のお墓

お墓は主にムラあるいは家族単位で整然と配置され、集団墓地という形態が一般的でした。しかし、次第に特定個人のお墓が作られていきます。安佐北区口田地区の太田川を望む高台の一角では、全国でも珍しい河原石を使っているお墓が見つっています。その一つ梨ヶ谷遺跡の石室は、石造りの造形美すらも感じさせられます。たった一人のために眼下を雄大に流れる太田川から10kgを超える河原石を1,500個以上運びあげさせた有力者の力のほどが推し量れます。



有力者の墓 (安佐北区梨ヶ谷遺跡)



副葬された鉄製品 (安佐北区梨ヶ谷遺跡)



お墓に供えられた土器 (安佐北区大久保遺跡)

(3) あの世へのお供

弥生時代には一般的にお墓に副葬品(ふくそうひん)を入れない例が多いものの、なかには日用品を手向けたものもあります。安佐北区口田町の梨ヶ谷遺跡では、様々な鉄製品が弔いの儀式の時に納められたと考えられており、古墳時代の葬送手順・儀礼へつながる墓として注目されています。

ひろしまの弥生人の骨は語る

日本では、一般に高温多湿や酸性土壌のため、骨のカルシウム分は溶けやすく、広島も例外ではありません。しかし、埋葬施設の中が密閉されるなどの条件が整っていると人骨は見つかります。広島市内では、安佐北区白木町の佐久良遺跡や、安佐北区三入南の丸子山遺跡、安佐北区口田町の梨ヶ谷遺跡などで見つっています。全国では、石灰質の多い砂浜などで、人骨が完全な形で出土することもあります。



人骨の出土状況

(山口県土井ヶ浜遺跡 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム)



人骨の出土状況（安佐北区佐久良遺跡）



人面付き土器（鳥根県西川津遺跡 鳥根県教育委員会）



弥生人の復顔

(山口県土井ヶ浜遺跡 松下孝幸氏)



人形土製品

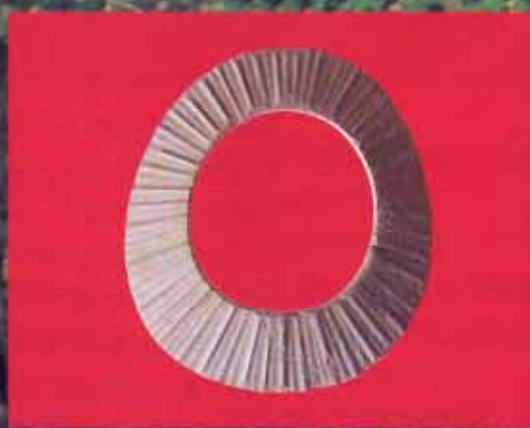
(山口県綾羅木郷遺跡

財団法人山口県教育財団山口県歴史文化財センター)

エビローグ ムラからクニへ



竪穴式石室（安佐北区弘住第3号古墳）



車輪石（安佐北区中小田第1号古墳）

塔の岡古墳群（安佐北区）

大陸から伝わった米づくりはムラ単位で行われ、その実りはムラ人全員で分かち合った。しかし、弥生社会が成熟するにしたがい、富や権力がある特定の個人や集団に集中するようになった。そして、大がかりな個人のための墓が造られるようになり、社会はより巨大な墓を作り上げる古墳時代という新たな段階へ歩み出していった。

第22回文化財展 借用展示資料リスト

1. ようこそ 弥生ムラへ

展示資料	遺跡名	数量	備考	借用先
弥生時代の衣服		1	復元	東大阪市立郷土博物館
弥生時代の衣服		1	//	大阪府立弥生文化博物館
弥生時代の衣服		5	//	和泉市教育委員会
鋤、鍬			//	福岡市教育委員会
炭化米	浄福寺1号遺跡			財団法人広島県埋蔵文化財調査センター
籾圧痕のある土器	御領遺跡	1		神辺町教育委員会
米圧痕のある土器	横路遺跡	1		財団法人広島県埋蔵文化財調査センター
釣針	西川津遺跡	4		島根県教育委員会
おもり	西川津遺跡	1		島根県教育委員会
弓矢、土器			復元	広島県立歴史民俗資料館
臼、杵			//	福岡市教育委員会
巴形銅器	西山遺跡	1		広島大学文学部考古学研究室
鉄斧	西山遺跡	1		広島大学文学部考古学研究室
鉈	西山遺跡	1		広島大学文学部考古学研究室
鉄鏃	西山遺跡	1		広島大学文学部考古学研究室
銅鏃	西山遺跡	1		広島大学文学部考古学研究室

2. 土器の美

展示資料	遺跡名	数量	備考	借用先
器台	西願寺山墳墓群	1		広島県立歴史民俗資料館
大型壺	針摺遺跡	1		福岡市埋蔵文化財センター
彩文壺	雀居遺跡	1		福岡市埋蔵文化財センター
甕	雀居遺跡	1		福岡市埋蔵文化財センター
壺	雀居遺跡	1		福岡市埋蔵文化財センター
鉢	雀居遺跡	1		福岡市埋蔵文化財センター
甕	中山貝塚	1		広島大学文学部考古学研究室
壺	中山貝塚	1		広島大学文学部考古学研究室
無頸壺	中山貝塚	1		広島大学文学部考古学研究室
木葉紋の土器	中山貝塚	1		広島大学文学部考古学研究室
櫛描紋の壺	中山貝塚	1		広島大学文学部考古学研究室
細頸壺	船橋遺跡	1		大阪府立弥生文化博物館
水差形土器	船橋遺跡	1		大阪府立弥生文化博物館
鉢	塩町遺跡	1		広島大学文学部考古学研究室
壺	塩町遺跡	1		広島大学文学部考古学研究室
脚付鉢	矢原遺跡	1		広島県立歴史民俗資料館
壺	神谷川遺跡	1		広島大学文学部考古学研究室
甕	三田谷Ⅰ遺跡	1		島根県教育委員会
甕	平等坊・岩室遺跡	1		天理市教育委員会
甕形土器	妙見山遺跡	1		庄原市教育委員会

3. まじないとマツリ

展示資料	遺跡名	数量	備考	借用先
銅鐸	木の宗山遺跡	1	レプリカ	光町清子氏
銅剣	木の宗山遺跡	1	//	光町清子氏
銅戈	木の宗山遺跡	1	//	光町清子氏
銅鐸	黒川遺跡	1		広島県立歴史民俗資料館
銅鐸形土製品	和田原C地点遺跡	1		庄原市教育委員会
絵画土器	道上渡瀬遺跡	1		神辺町教育委員会
分銅形土製品	和田原C地点遺跡	1		庄原市教育委員会
分銅形土製品	塩町遺跡	2		広島大学文学部考古学研究室
貝製腕輪	土井ヶ浜遺跡	2		土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム
貝製腕輪	中山貝塚	3		広島大学文学部考古学研究室
骨角器	中山貝塚	5		広島大学文学部考古学研究室
銅鐸鋳型	安永田遺跡	1	レプリカ	鳥栖市教育委員会
銅鐸		1	復元、遠所和夫氏製作	島根県立八雲立つ風土記の丘資料館

4. 葬る

展示資料	遺跡名	数量	備考	借用先
弥生人の復顔	土井ヶ浜遺跡	1	模型	松下孝幸氏
弥生人の復顔	詫田西分遺跡	1	//	松下孝幸氏
弥生人の復顔	長寺遺跡	1	//	天理市教育委員会
人面付土器	西川津遺跡	1		島根県教育委員会
人形土製品	御領遺跡	1		神辺町教育委員会

第22回文化財展 展示協力者一覧 (五十音順、敬称略)

団体名

朝日新聞社	財団法人山口県教育財団山口県埋蔵文化財センター	東京大学総合研究博物館
和泉市教育委員会	佐賀県教育庁	鳥栖市教育委員会
大朝町郷土資料館	四條畷市教育委員会	奈良県立橿原考古学研究所
大阪府立弥生文化博物館	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	東大阪市立郷土博物館
岡山県古代吉備文化財センター	島根県立八雲立つ風土記の丘資料館	広島県立歴史民俗資料館
神辺町教育委員会	庄原市教育委員会	広島大学文学部考古学研究室
神辺町立歴史民俗資料館	新市町立歴史民俗資料館	福岡市教育委員会
神戸市立博物館	中国新聞社	福岡市埋蔵文化財センター
財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター	天理市教育委員会	守山市教育委員会
財団法人大阪府文化財調査研究センター	天理市文化センター	淀江町教育委員会
財団法人広島県埋蔵文化財調査センター	土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム	

個人名

井手三千男	岩田 珠美	川畑 和弘	中西 克宏	平林 工	松下 孝幸	三好 裕之
出野上 靖	上野 節子	桑田 博正	中野 雅美	深田 浩	松本 洋明	村上 年生
青木 勘時	伊藤 実	大下 裕史	佐藤 寛介	乗安和二三	藤瀬 禎博	光町 清子
荒牧 宏之	稲垣 寿彦	尾多賀晴悟	善入 義信	野島 稔	堀内歌津恵	宮澤 明久
安間 拓巳	乾 哲也	加藤 良彦	長崎 浩	林 日佐子	本間恵美子	三好 唯義



財団法人広島市文化財団 文化科学部 文化財課
〒730-0812 広島市中区加古町4番17号 Tel.082-248-0427